

〈修理報告〉

## 湖東焼吊燈籠

高野美術工房

一、名称・員数・所蔵

湖東焼吊燈籠 一基 滋賀県立琵琶湖文化館所蔵

二、作業概要

令和二年度に清掃作業（作品側面扉部分の旧修理箇所剥離清掃）、令和三年度に修復共直し（作品側面扉部分の旧修理箇所再修理共色直し）を実施した。

三、内容

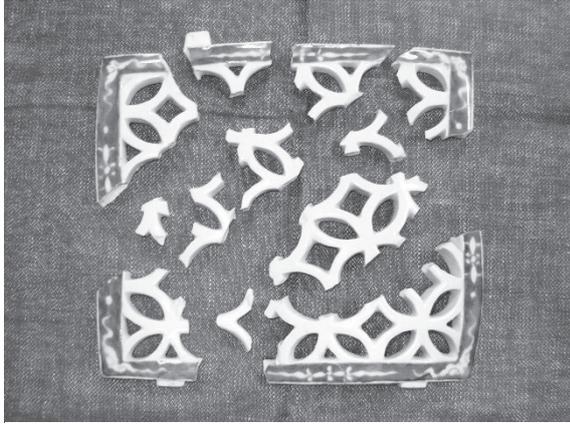
吊燈籠本体の側面（裏面）の開口部扉全体が大きく破断したのを、焼継ぎ（一部漆継ぎ）で接着、一部を漆下地にて整形し金直しを施した状態に修復されていたが、その旧修復部が緩んでおり、また、一部が衝撃を受けたことにより再破損した状態になっている。また旧修理時における接続のずれが複数箇所みられる。

令和二年度は、旧修復を全て剥離清掃し、構成全パーツを初期の破損修復前の本体及び破損部品だけの状態に戻した。

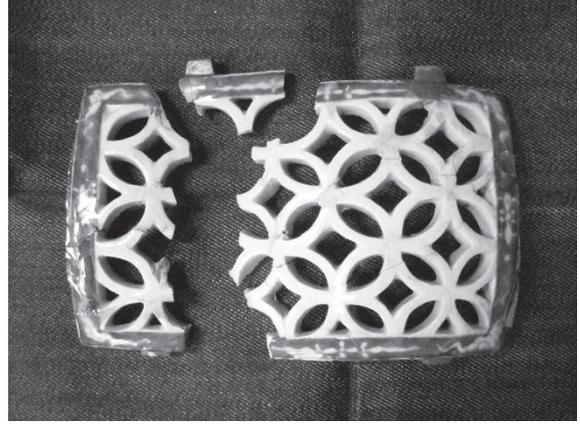
令和三年度は、各破損部品を再度接着剤にて継ぎ組み立てし、合成樹脂パテにて整形及び欠損部の成型を行い破損前の形状を回復した後、修復部を作品本来の色合いに近い着色仕上げとする共色直しを行い、扉全体を破損前の状態への回復を目指した。

使用した溶剤は樹脂ラッカーシンナー2500K（日本ペイント販売株式会社）、樹脂はシアノアクリレート化学反応形接着剤（東亜合成株式会社）、エポキシ樹脂系化学反応接着剤（ユニシ株式会社）、酢酸ビニル樹脂（セメダイン株式会社）、アクリル樹脂（東亜ペイント株式会社）、その他、胡粉、顔料、合成樹脂塗料を用いた。

（たかのびじゅつこうぼう・新、古美術工芸品修理）



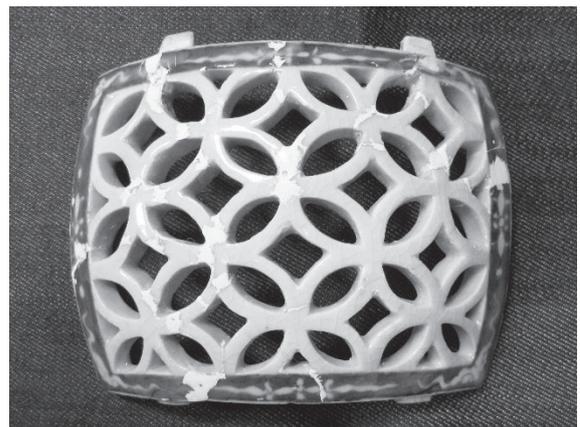
清掃後



修理前



修理後(笠をはずした状態)



整形及び欠損部成型後